

# 国際フォーラム「地球環境と塑性加工」

日本塑性加工学会 国際環境シンポジウム準備委員会

準備委員長 川井謙一

(横浜国立大学 工学部 助教授)

(平成4年度国際会議等開催準備助成 AF-92041)

1. 開催日時：1993年5月26日(水)
2. 開催場所：工業技術院筑波研究センター(つくば市東1-1-4)
3. 会議報告：

1992年6月には国連環境開発会議(UNCED)が開催され、環境問題は多くの面で関心を集めている。また、カウボーイ経済から宇宙船経済への経済構造の転換に伴って、各種産業の構造転換が迫られており、塑性加工技術もその例外ではない。今日の環境問題は1970年代の公害問題とは異なり、特定地域、国家の枠を超えた問題であり、その解決には国際的な協力が不可欠である。産業構造、経済構造の違いに応じた環境問題への取組みの現状を相互に理解し、共通の問題を解決する方策を模索するには、国際的視野の意見交換が必要となる。一方、環境問題と塑性加工技術との関連を考えると、単に塑性加工というひとつの加工技術だけではなく、素形材の製造に始まり最終的に製品を得るまでの全プロセス、また、製品寿命やそのリサイクルまでを考慮する必要があり、塑性加工が今日の環境問題に及ぼす影響の評価は必ずしも容易ではない。

国際フォーラム「地球環境と塑性加工」では、上記のような共通の認識のもとに、まず、国内の産・官・学の各分野の代表から現状における塑性加工と環境問題のかかわりに

関する報告があった。これらの報告では、環境問題に対する産業政策、鉄鋼・自動車・電機の各産業における環境問題とそれに対する取組み、環境保全のために開発すべき塑性加工関連技術などが紹介された。次いで、ドイツ、アメリカ、中国の代表から、塑性加工技術の観点からの各国の環境問題に対する取組みの現状などが報告された。最後に、全講師をパネリストとして、環境問題を塑性加工技術の立場から解決し、同時に環境保全のための技術開発を国際的な研究協力体制で推進するための方策等に関する総合討論が行われた。この総合討論においては、今日の環境問題はその因果関係が明確ではなく、長期にわたる研究を必要とし、そのためには国際的な研究協力が不可欠であることが共通の認識として討論された。また、国際的な研究協力に関して、塑性加工技術に関連した環境問題の評価技術の確立の必要性、各国におけるその評価の実施と比較の必要性、またこれらを継続して討論するための場としての本国際フォーラムの継続などが提案された。

なお、本国際フォーラム「地球環境と塑性加工」における全講師の講演内容は、Journal of Materials Processing Technology (Elsevier Science Publishers B.V.) の特集号に掲載される予定である。また、次回の国際フォーラム「地球環境と塑性加工」は、1994年、ドイツにおいて開催される予定である。